

2017-B		VI100B			
拠出金・基金の名称		グローバル作物多様性基金拠出金			
種 別		☒ イヤマークのみ ☐ 一部イヤマーク			
【拠出先の国際機関名】グローバル作物多様性基金(GCDT)					
【所管官庁担当局課・室名】 農林水産省大臣官房国際部海外投資・協力グループ／農林水産技術会議事務局国際研究官室					
【当該任意拠出金の目的・用途等】 国際農業研究協議グループ(CGIAR)のジーンバンクの運営を支援するグローバル作物多様性基金(GCDT)へ資金を拠出し、食料及び農業のための植物遺伝資源に関する国際条約(ITPGR)の基盤強化に貢献する。					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	16,275	148	-	1米ドル=110円	100
平成28年度	19,727	164	-	1米ドル=120円	100
平成27年度	21,569	196	-	1米ドル=110円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】 グローバル作物多様性基金(GCDT)は、世界の食料安全保障のため、作物多様性の維持とその利用可能性の確保を目的に、FAOとCGIARの協力のもとに設立された国際組織である。本研究組織は、2006年に世界の食料安全保障を推進する条約であるITPGRを運営する事務局と関係協定を結んでおり、ITPGRの登録数の約6割に相当する遺伝資源を提供しているほか、種子の生育域外保全というミッションを長期的に行うことで、食料安全保障の一翼を担っている。 当該任意拠出金は、CGIARのジーンバンクの運営を支援するGCDTに研究資金を拠出することを通じて、CGIAR傘下のアフリカ稲研究所(AfricaRice)に保存されているアフリカイネの有用な遺伝子を探索することで、ITPGRの基盤強化に貢献するとともに、多様な有用品種の作出を促進するものであり、世界の食料安全保障を強化する観点からその意義は極めて大きい。					
【備考】					